

2024年11月議会 総括質問原稿

2024年11月29日
静岡市議会議員
松谷 清

3 静岡都心のウォーカブルなまちづくりについて

<松谷清議員 質問>

10月に青葉シンボルロードで歩行者天国が社会実験され、11月に江川町交差点の電電ビルと日生ビルの上に横断歩道が完成しました。市政変革研究会では静岡駅北口の横断歩道について議論され現在、調査が進んでいます。すでに駅から呉服町通りに向かう2区画は車の流入は禁止され自転車置き場も設置されています。「居心地がよく歩きたくなる」まちなかの将来像について総括質問でも何度となく取り上げてきました。そこで

《1回目》

- 1, 静岡都心地区のウォーカブルなまちづくりをどのように進めていくのか。

<都市局長 答弁>

ウォーカブルなまちづくりを進めるためには、「移動のしやすさ」と「居心地の良さ」の2つの取組がポイントであると考えている。

1つ目の「移動のしやすさ」については、11月に横断歩道を設置した江川町交差点の平面横断化や、国道1号の横断方法の検討など、歩行者の安全かつ円滑な移動を支える取組を進めている。

2つ目の「居心地の良さ」については、青葉シンボルロードにおいて、公共空間にテーブルや椅子を設置し、将来の姿をイメージした実証実験「アオバリビング」や、七間町通りに面して屋外ステージと子供の遊び場を提供しているアルティエなど、来訪者の滞在環境を向上させる取組を官民で進めている。

これらの取組については、都心に流入する通過車両の抑制や歩行者の安全安心の確保、地域住民や沿道店舗の方々の理解と協力が不可欠。

そのため、道路管理者や交通管理者など関係機関と連携し、商店街など地域の皆さんと協働して、ウォーカブルなまちづくりを進めていく。

《2 回目》

＜松谷清議員 質問＞

全体像について伺いました。私自身は、静岡駅北口から駿府城公園に向かう江川町交差点までの御幸通りを姫路市型の街づくりと重ね歩いて楽しいウォーカブルな道路空間の整備を求めてきました。そのようなウォーカブルなまちづくりとして進められている静岡都心地区での取り組みの状況について伺います。

1, 江ウォーカブル横断歩道設置により、どのような効果を想定しているのか。

＜都市局長 答弁＞

・これまで、社会実験を実施し、まず、東西方向に横断歩道を設置した。
・今回の南北方向の横断歩道設置により、さらに地上で横断する人が増え、利便性向上が図られる。
今後、調査を行い、検証していきたい。

＜松谷清議員 質問＞

2, 市政変革研究会で取り上げられている JR 静岡駅北口の国道横断に向けた 2024 年度(令和6年)の調査の目的と内容はどのようなか。

＜都市局長 答弁＞

静岡都心地区は、JR 静岡駅と中心市街地が近接した恵まれた立地でありながら、国道1号によって歩行者動線が分断されている状況。

現在は、地下道や周辺の交差点で横断できるものの、ウォーカブルなまちづくりの実現に向けては、駅からまちなかへの円滑な移動や、都心地区内の更なる回遊性の向上が、必要と考えている。

令和6年度の調査は、国道1号と井川湖御幸線を通行し、都心へ流入する通過車両の抑制や、JR 静岡駅前の横断距離を短くするための交差点のコンパクト化など、関係機関との協議を進展させるための資料を作成することを目的としている。

調査の内容としては、車流データ等のビッグデータを活用し、JR 静岡駅前の交差点を通過する自動車について、出発地や目的地に加え移動経路や通過速度など、現在の交通実態を把握する。

これにより、都心に目的がない通過車両に対して、迂回経路の有効性について評価するとともに、交通シミュレーションを行い、交差点形状の変更による周辺道路への影響についても検証

していく。

《3 回目》

＜松谷清議員 要望＞

都心のまちなかのウォークアブルなまちづくりを掲げる以上、姫路市のように駅前の国道の横断歩道、江川町までの公共交通優先・一般車両乗り入れ禁止、江川町交差点のスクランブル化は避けて通れないと考えています。商業空間を含め「居心地よく歩きたくなる」まちづくりを姫路市は 10 年で実現しました。より早期の具体的道筋を提示すべきことを要望しておきたいと考えます。